
新型コロナウイルスに揺れる南アフリカ

牧野 久美子

Makino Kumiko

はじめに

南アフリカで初めて新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の陽性事例が確認されたのは、2020年3月5日のことであった。当初は海外からの帰国者の感染確認が相次ぎ、輸入感染症の様相を呈していたが、やがて国内感染が始まり、西ケープ州やハウテン州の大都市部を中心に感染拡大が観察されるようになった。本稿執筆時点（9月末）で、南アフリカにおける感染確認者数の累計は67万2572人、死亡者数は1万6667人に上る。感染確認者数、死亡者数とも、アフリカ大陸では他国を大きく引き離して首位を独走しており、一時期は世界全体でも感染者数が米国、ブラジル、インド、ロシアに次いで世界第5位となっていた⁽¹⁾。7月下旬以降、新規の感染確認者数は減少傾向に転じ、感染拡大のピークは過ぎたとみられている。しかし今後、第二波、第三波が到来する可能性もあり、予断を許さない状況が続いている。

本稿が分析の対象とするのは、2020年9月までの南アフリカのCOVID-19への対応である。国内感染がまだあまり広がっていない早期の段階で、南アフリカは厳しいロックダウン（都市封鎖）規制の導入に踏み切った。以下では、このロックダウンの経過を振り返り、それが南アフリカのCOVID-19の流行状況および経済にどのような影響を及ぼしたのか、そして経済的影響に関して南アフリカ政府がどのような対策を講じているのかを検討する。

1 感染拡大予防策——早期の厳格なロックダウンと積極的症例探索

南アフリカ政府は、国内で陽性事例が確認される前から、中国、そしてその後の欧州諸国のCOVID-19のパンデミック（世界的大流行）を注視し、強く警戒していた。南アフリカ政府が新型コロナウイルスの自国への流入に神経を尖らせていたのにはもっともな理由があった。第1に、南アフリカは上位中所得国に数えられるが、国内に大きな格差を抱え、人口の約半数が貧困線以下で暮らしているという事情がある（World Bank Group 2018）。第2に、南アフリカの保健医療システムは民間部門と公的部門に分断されており、提供される医療の水準は高いが費用も高額な民間医療機関と、低額もしくは無料で利用できるが慢性的なりソース不足となっている公的医療機関への二極化が問題となってきた（牧野 2020）。第3に、成人の5人に1人がエイズウイルス（HIV）陽性で、結核患者も多く、HIVや結核菌を体内にもっている人が新型コロナウイルスに感染した場合に重篤化しやすいのではないかと危惧されたことも、南アフリカ政府が危機感を募らせる理由であった⁽²⁾。貧しい人びとが密集して暮らすタ

ウンシップ（アパルトヘイト時代の旧黒人居住区）やインフォーマル居住区においては、頻繁な手洗いや手指消毒、ソーシャルディスタンスといった基本的な感染予防策を実践するのが困難である。そのような地域で感染が急速に広がった場合、ただでさえ余裕のない公的医療機関がパンクしてしまう恐れがあった。

最初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから10日後の3月15日、シリル・ラマポーザ大統領は国家的災害事態を宣言した。3月23日に同大統領は再度国民に向けて演説し、3月27日より南アフリカ全土を対象とするロックダウンを開始することをアナウンスした（Ramaphosa 2020a）。当初の最も厳格な（「レベル5」）ロックダウン規制のもとでは、医療機関、ドラッグストア、スーパー、金融機関、ガソリンスタンドといった、最低限の生活や経済活動を継続するのに不可欠とされる業種以外は営業を禁じられ、人々は通院や食料品の買い出し、社会手当の受け取りなど、ごく限られた目的の外出を除いて、「ステイホーム」を強制された。

ロックダウン規制は5月以降、段階的に緩和され（第1表）、9月21日からは5段階で最も緩い「レベル1」となった。ラマポーザ大統領は、「レベル1」への緩和を発表した9月16日の演説で、「保健医療システムの能力を保ちながら、この感染症流行の最悪の局面を克服することに成功した」と胸を張った（Ramaphosa 2020c）。公共の場でのマスク着用義務、長距離バスの乗車率の規制、集会の人数制限などはまだあるものの、人々の生活はほぼ日常に戻りつつある。10月1日からは国境封鎖も解かれ、国境を越えた人の移動も再開している。

ロックダウンと並行して、南アフリカ政府は検査体制の強化も図った。医療機関やドラッグストアなどでの検査提供に加え、コミュニティー・ヘルス・ワーカー（CHW: Community Health Workers, あるいはCommunity Healthcare Workers）を活用した積極的症例探索（active case finding）を実施してきたことが南アフリカのCOVID-19対策の大きな特徴である。CHWとは、医師や看護師の資格をもたずに、一定の訓練を受けて、おもに公的医療部門で補助的な業務

第1表 南アフリカのCOVID-19対策の経緯

2020年 3月 5日	南アフリカで最初の感染者が確認される
3月15日	国家的災害宣言発出
3月27日	全土を対象とするロックダウン規制を開始(当初予定は3週間)
4月 1日	コミュニティー・マス・スクリーニングを開始
4月 9日	4月末までのロックダウン延長がアナウンスされる
4月21日	5000億ランド規模の経済対策発表
5月 1日	ロックダウン「レベル4」に緩和
6月 1日	ロックダウン「レベル3」に緩和
8月17日	ロックダウン「レベル2」に緩和
9月21日	ロックダウン「レベル1」に緩和
10月 1日	国境封鎖解除
10月15日	経済復興回復計画発表

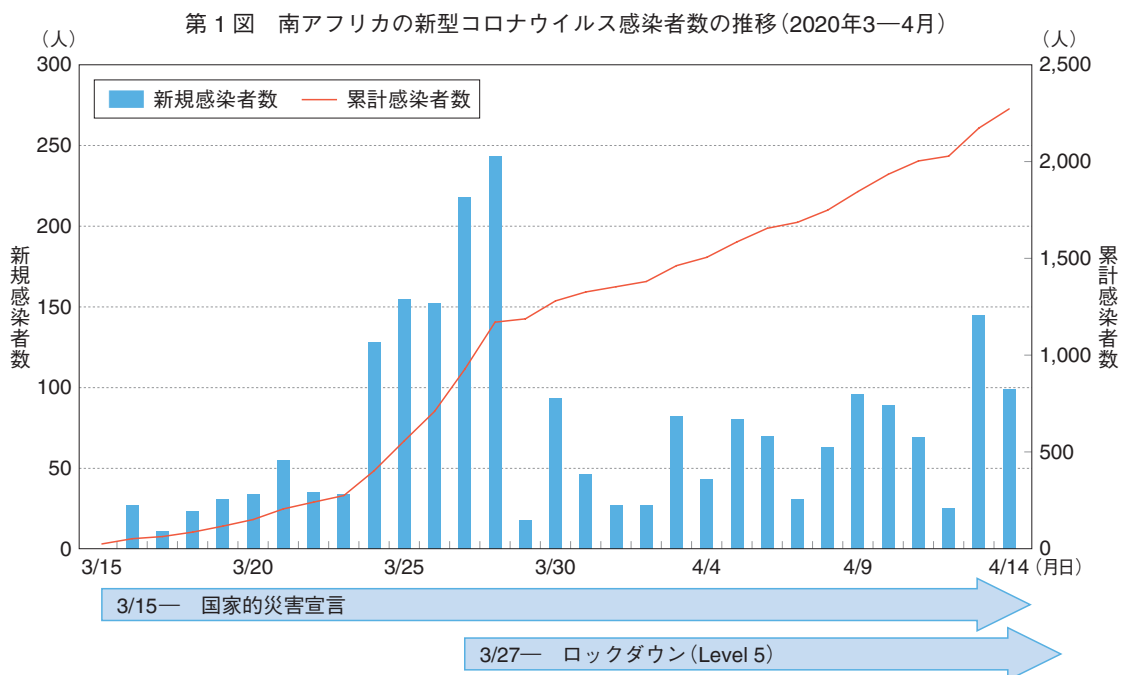
(出所) 南アフリカ政府資料や現地報道に基づき筆者作成。

を行なう人たちのことである。南アフリカでは従来からCHWがHIV陽性者や結核患者の相談に乗ったり、治療をサポートしたりしてきた。COVID-19対応においてもCHWが最前線で活動しており、2020年4月以降、2万8000人以上のCHWが感染拡大のリスクの高い地域で戸別訪問を通じてスクリーニングを実施し、感染の疑いがある場合には検査へとつなげる活動を行ってきた⁽³⁾。5月末までに1日の検査件数は2万件を超えるようになり、9月末の時点で、南アフリカの人口1000人当たりの検査件数は70.61件と、日本（人口1000人当たり19.69件）の3倍以上に達している。このほか、結核患者の接触者追跡を担当してきたチームが、COVID-19に関しても接触者追跡を行っており（Karim 2020b）、従来からHIVや結核などの感染症の疾病負荷が高い南アフリカならではの経験の蓄積がCOVID-19対応に生かされてきたと言える。

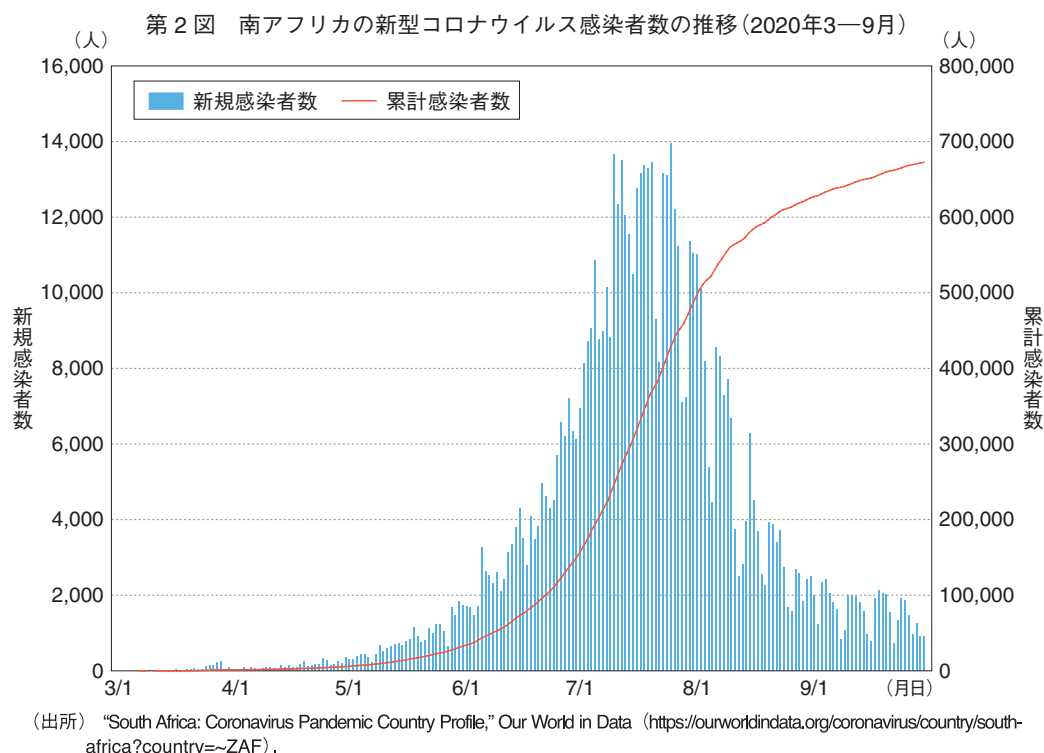
2 ロックダウンの効果——避けられた「医療崩壊」

ロックダウンにより、介入がなかった場合と比べて南アフリカの新型コロナウイルスの感染拡大が一定程度抑制されたことは、すでに実証的に示されている（Carlitz and Makhura 2021）。第1図に示したように、ロックダウンの開始直後、日々の新規感染確認者数はロックダウン以前と比べて減少し、累計の感染確認者数の増加ペースが抑制された。酒の販売が禁じられ、飲酒がらみの傷害事件や交通事故が激減したことにより、皮肉なことに「レベル5」のロックダウン期間中（3月27日—4月30日）の南アフリカの総死者数は、平年の死者数をもとにした予想死者数よりも少なくなるという、世界的にも珍しい現象も起きた⁽⁴⁾。

ただし、これが一時的なものであり、時間の経過とともに新型コロナウイルスの感染者もそれによる死亡者も増加し、7月か8月頃にピークを迎えるであろうことは、当初から予測さ



(出所) “South Africa: Coronavirus Pandemic Country Profile,” Our World in Data (<https://ourworldindata.org/coronavirus/country/south-africa?country=~ZAF>).



れていた (Karim 2020a; SACMC 2020)。そして実際、そのとおりになった (第2図)。

厳格なロックダウンの目的は、ピーク時の患者受け入れ態勢を整えるための時間を稼ぐことにあり、「時間稼ぎ」の間に、前述の検査体制の強化のほか、国際会議場のCOVID-19専用病棟への改装などが行なわれた。感染拡大を完全に抑え込むことが意図されていたわけではなかったことを考えれば、南アフリカのロックダウンは、一応は所期の目的を達成したと評価できよう⁽⁵⁾。個人用防護具 (PPE) の調達契約をめぐる多くの汚職疑惑が生じており、一部の公立病院では消毒液すら不足している事態も報じられているが、恐れられていた「医療崩壊」のような事態はおおむね避けられた⁽⁶⁾。

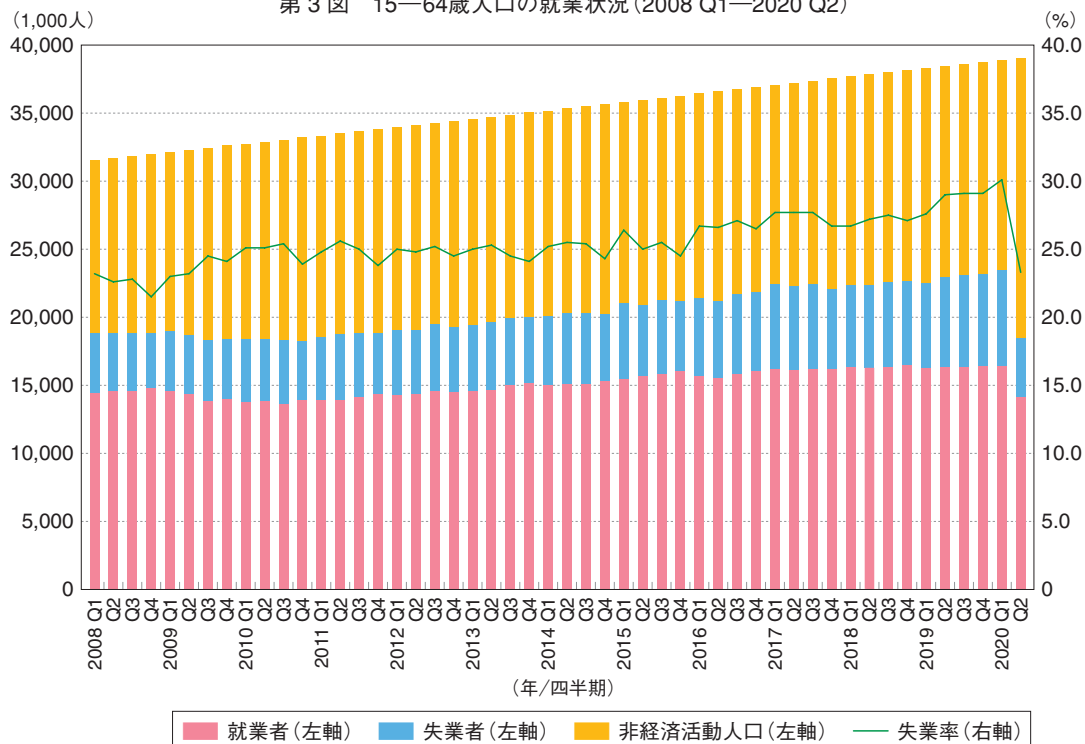
他方で、ロックダウンが南アフリカの経済に与えた影響は甚大であった。次節以降では、COVID-19の経済的影響と政府による経済対策についてみていこう。

3 COVID-19の経済的影響——雇用減少と格差拡大

2020年10月に国際通貨基金 (IMF) は、COVID-19の影響により2020年の世界経済は4.4%のマイナス成長となるという見通しを発表した。同じ報告書のなかで南アフリカの2020年の成長率の見通しはマイナス8.0%とされており、南アフリカは世界平均以上に深刻な影響を受けることが予測されている (IMF 2020b)。南アフリカ経済は新型コロナウイルスの流行が始まる以前から、広範な汚職を背景とする国営企業の経営危機などにより低迷していたが⁽⁷⁾、COVID-19によりさらに経済の危機的状況が深まっている。

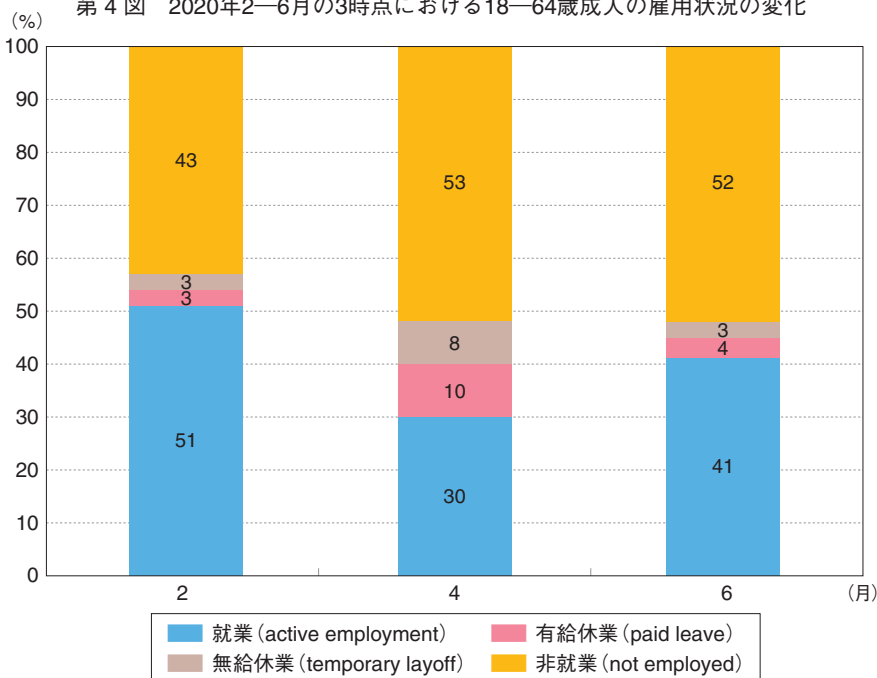
特に人びとの生計に直結する雇用への打撃は深刻なものがある。もともと南アフリカは失業率が30%近くに上っており、雇用創出は常に政策の優先課題のトップに掲げられてきた

第3図 15—64歳人口の就業状況 (2008 Q1—2020 Q2)



(出所) Stats SA (2020a) に基づき筆者作成。

第4図 2020年2—6月の3時点における18—64歳成人の雇用状況の変化



(注) 「非就業」は非経済活動人口を含む。合計が必ずしも100%にならないが、端数処理によるものと思われるため、原典資料のとおりに記載している。

(出所) Jain et al. (2020: Figure 2) に基づき筆者作成。

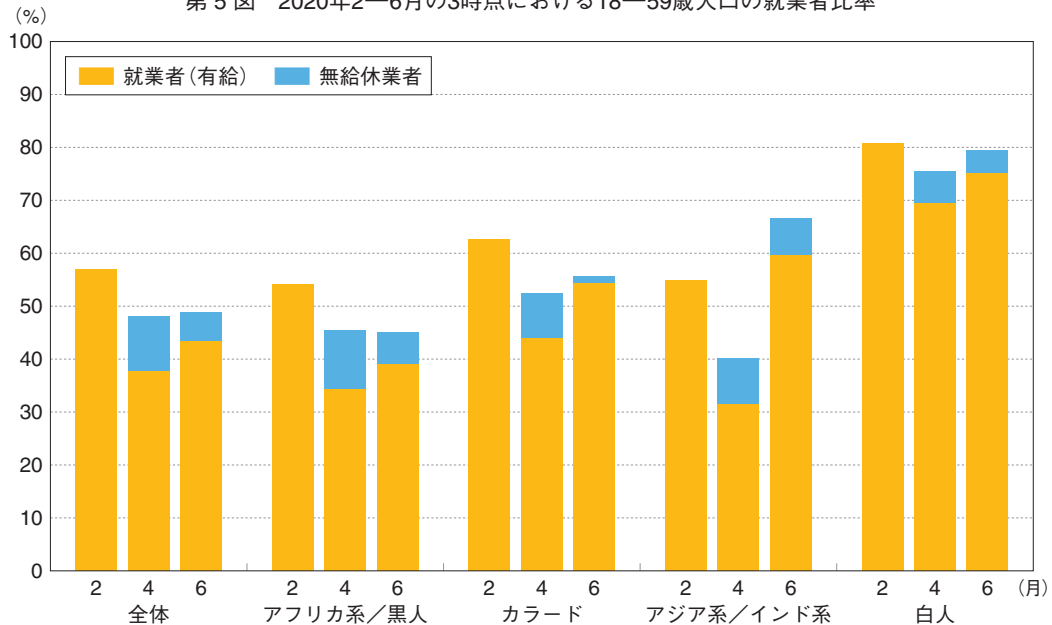
(牧野 2019)。ところが、南アフリカ統計局の労働力調査によれば、2020年第1四半期 (Q1) と比べて第2四半期 (Q2) には220万件の雇用が失われたという (Stats SA 2020b)。これは、2008年に現在のかたちで労働力調査が始まって以降に増加した雇用が、3ヵ月間ですべて吹

第2表 2020年2—6月の間に失われた雇用(2月の就業実績からの減少幅) (%)

		非就業	一時休業 (有給・無給)	合計
全体		16	4	20
男女別	女性	20	2	22
	男性	13	5	18
学歴別	高等教育なし	20	2	22
	高等教育あり	8	7	15
職種別	単純労働	30	0	30
	サービス業・機械操作	15	8	23
	専門職	7	5	12
所得階層別	第Ⅰ・第Ⅱ所得四分位 (所得下位50%)	31	1	32
	第Ⅲ所得四分位	17	2	19
	第Ⅳ所得四分位 (所得上位25%)	3	7	10
経済部門別	インフォーマル	14	5	19
	フォーマル	7	7	14
居住地域別	農村部	19	4	23
	都市部	16	4	20

(出所) Jain et al. (2020: Figure 3) に基づき筆者作成。

第5図 2020年2—6月の3時点における18—59歳人口の就業者比率



(出所) Ranchhod and Daniels (2020: Table 3) に基づき筆者作成。

き飛んでしまったことを意味する(第3図)⁽⁸⁾。また、南アフリカの複数の大学が共同で実施している「全国所得動態研究コロナウイルス迅速電話調査(NIDS-CRAM: National Income Dynamics Study – Coronavirus Rapid Mobile Survey)」によれば、成人(18—64歳)のうち非就業と答

えた人の割合は2020年2月から4月の間に43%から53%に増加し、ロックダウンが緩和されて一時的な休業者が仕事に戻り始めた6月になっても、その数値は1ポイント減の52%にまでしか回復しなかった（第4図）（Jain et al. 2020）。

注目されるのは、COVID-19やロックダウンの経済的影響が、南アフリカ社会に不均等に及んでいるということである。第2表および第5図は、上記のNIDS-CRAMの調査報告書に基づき、2020年2月から6月の間の就業者数の変化をサブグループ別に示したものである。これらの図表からは、高学歴・高所得の専門職よりも低学歴・低所得の単純労働従事者が、男性よりも女性が、都市部より農村部の居住者が、そして他の人種よりもアフリカ系/黒人のほうが、仕事を失いがちであることがみてとれる。すなわち、COVID-19の影響により、南アフリカの労働市場における格差はさらに深まっているのである。

4 経済対策——雇用と生計を守るか

前節で述べたようなCOVID-19の経済と生計への影響への対応として、これまで南アフリカ政府は3つのフェーズに分けて政策を発表している。第1フェーズは、3月23日にロックダウン決定と同時に発表されたもので、社会の脆弱層を支援するための連帯基金の設置、企業が従業員の雇用を維持するための支援、臨時の減税や納税猶予などが含まれていた（Ramaphosa 2020a）。4月21日には第2フェーズとして、社会手当の増額と対象拡大、中小企業や自営業者への支援、新たな債務保証制度の導入などを含む、総額5000億ランドの「経済刺激パッケージ」が発表された（Ramaphosa 2020b）。5000億ランドといえば南アフリカの国内総生産（GDP）の約10%に相当する規模である。既存の予算の組み換えや失業保険基金などの国内財源だけでは不足するため、南アフリカ政府はIMFから43億米ドル（700億ランド）の緊急融資を受ける決断をした（IMF 2020a）⁽⁹⁾。第3フェーズは、パンデミックから脱したのちの経済回復にかかわる対策であり、10月15日にラマポーザ大統領が80万件の雇用機会創出などを目標として掲げる「経済復興回復計画」を国会で発表した⁽¹⁰⁾。

第3フェーズの政策実施はこれからであるが、第2フェーズまでで生計支援として特に重要な意味をもってきたのは、社会手当の増額と対象拡大、および時限的被雇用者・雇用者救済制度（TERS: Temporary Employee/Employer Relief Scheme）と呼ばれる雇用維持のための補助金の2つの政策である。南アフリカには従来から大規模な社会手当制度があり、貧困世帯の生計に重要な役割を果たしてきたことが知られているが（牧野 2014）、COVID-19への対応として高齢者、障害者、子どもを対象とする既存の社会手当の支給額が一時的に増額されたほか、これまでは社会手当の対象ではなかった失業者（失業保険や他の社会手当の給付を受けていない場合に限る）を対象とする特別手当が導入された。また、TERSはロックダウンにより休業したりCOVID-19の影響で減収になったりした企業が従業員の雇用を維持する場合に、従業員への支払い給与の一部を補助するものである。

公式発表によれば、2020年9月までに社会手当の増額・対象拡大によって1600万人に合計300億ランドが追加的に直接支給され、またTERSを通じて400万人に420億ランドの賃金補助が実施された（Ramaphosa 2020c）。これらの支援は、COVID-19の影響を受けた生計を支え

るうえで一定の役割を果たしているとみられる。NIDS-CRAMの調査報告書によれば、食料を買うお金がなくなったと回答した世帯は4月には47%にのぼったが、社会手当や賃金補助が人びとに届き始めた6月には37%に減少したという。また、十分な食料がないために過去7日間に空腹を経験した世帯員がいると回答した割合も、5—6月（成人22%、子ども15%）に比べて、7—8月には減少している（成人16%、子ども11%）（Bridgman et al. 2020）。ただ、減少したといっても、依然として食料を買うためのお金に事欠き、十分な食事をとれずにいる人びとの割合は、憂慮すべき高い水準である。社会手当の増額・対象拡大措置は10月までの期間限定とされているが、社会的保護の専門家らは、貧困世帯の食料安全保障の観点からこの措置の延長を強く求めている（Patel et al. 2020）⁽¹¹⁾。

おわりに

本稿では、2020年3月から9月までの南アフリカのCOVID-19への対応を振り返ってきた。ここまでみてきたように、早期に開始した厳格なロックダウンは、新型コロナウイルスの感染拡大のスピードを緩め、患者の受け入れ態勢を整えるための時間稼ぎをするという、公衆衛生上の目的に資するものではあったと言える。しかし同時に、ロックダウンが南アフリカ経済に重大な悪影響を及ぼしたことを見逃すことはできない。しかもその影響は均等に及んだのではなく、もともと不利な状況に置かれてきた人々の生計が不釣り合いなダメージを受けてきた。

南アフリカ経済は、COVID-19パンデミック以前から低迷し、30%近い高い水準で推移する失業率、国営企業の経営危機など、深刻な問題を抱えていた。COVID-19の影響により南アフリカの経済危機はさらに深まり、格差もこれまで以上に広がっている。COVID-19がもたらす公衆衛生上の危機をくぐりぬけたあとも、南アフリカはその経済的後遺症に長らく苦しむことになるだろう。

- (1) 本稿全体を通じて、感染者数、死亡者数、検査件数などのデータは、特に断わらない限り“COVID-19 South African Resource Portal”（<https://sacoronavirus.co.za/>）および“*Our World in Data*”（<https://ourworldindata.org/>）による。
- (2) 2018年の南アフリカのHIV陽性者数は約770万人で、15—49歳のHIV陽性率は20.4%であった（<https://www.unaids.org/en/regionscountries/countries/southafrica>）。また、2018年の結核の事例は約30万1000件で、その半数以上がHIVとの重感染であった（WHO 2019）。HIVや結核とCOVID-19の関係については現時点では不明な点も多いが、2020年8月に発表された西ケープ州の公的医療機関利用者を対象とした調査によれば、HIVや結核の既往症があることは、年齢が高いこと、男性であること、糖尿病、高血圧、慢性腎臓病の既往症とならんで、COVID-19による死亡率を上げる要因であることが示されている（Boulle et al. 2020）。
- (3) 6月上旬までに人口の約20%にあたる1100万人あまりに対してスクリーニングが行なわれた（Karim 2020b）。
- (4) SAMRC, “*Report on Weekly Deaths in South Africa*”（<https://www.samrc.ac.za/reports/report-weekly-deaths-south-africa>）、および国際比較については*Financial Times*, “*Coronavirus tracker: the latest figures as countries fight Covid-19 resurgence*”（<https://www.ft.com/coronavirus-latest>）を参照。5月以降は超過死亡が観察されるようになり、5月6日から9月29日までの超過死者数は4万5000人以上と推計されている。これは公式に発表されているCOVID-19による死者数の2倍以上にあたり、その差の大

部分は、公式統計では捕捉されていないCOVID-19による死亡事例である可能性が高い。なお、超過死亡者数は7月半ばにピークに達し、9月にはほぼ平年並みにまで戻っている。

- (5) この点に関して、日本の一部報道はミスリーディングであった。たとえば4月30日放映のNHK BS1「国際報道2020」では、5月1日にロックダウンが「レベル4」に緩和された理由について、略奪や暴動が相次いで治安が悪化し、ロックダウンが維持できなくなった、という趣旨の報道を行なったが、この報道には多くの事実誤認が含まれていたことを南アフリカ在住の日本人らが指摘している（吉村ほか2020、白戸2020）。
- (6) “SIU Investigating 650 Companies over PPE Contracts Worth R7.5 bln,” SABC News, September 8, 2020 (<https://www.sabcnews.com/sabcnews/siu-investigating-650-companies-over-ppe-contracts-worth-r7-5-bl/>); “Gauteng Hospitals Ignore Protocols,” *Mail & Guardian*, October 2 to 8, 2020, p. 5; “Coronavirus in South Africa: Relief, pride and the ‘new normal’,” BBC, September 19, 2020, <https://www.bbc.com/news/world-africa-54207503>.
- (7) ジェイコブ・ズマ前大統領をはじめとする有力政治家と、政治的なコネクションによりビジネスを広げる企業家との癒着は「国家捕獲 (state capture)」と呼ばれ、現在、レイモンド・ゾンド判事を長とする調査委員会が設置されている。国家捕獲については、さしあたり Chipkin et al. (2019) を参照。
- (8) これほど多くの雇用が失われたにもかかわらず、公式の失業率はQ1の30.1%からQ2には23.3%と大きく下がったが、これはロックダウンで求職活動できなかった人々が多かったためである (Stats SA 2020b)。
- (9) 南アフリカがIMFから資金を借り入れるのは初めてのことである。
- (10) “Read: President Ramaphosa’s Economic Recovery Plan for SA,” Eyewitness News, October 15, 2020 (<https://ewn.co.za/2020/10/15/read-president-ramaphosa-s-economic-recovery-plan-for-sa>).
- (11) 10月15日の大統領演説で失業者向けの特別手当の3ヵ月延長が発表されたが（注10を参照）、その他の社会手当の増額措置は延長されない公算が高い。

■参考文献

- 白戸圭一 (2020) 「南アフリカのコロナ対策は本当に破綻したのか NHK番組に感じた違和感」『朝日新聞GLOBE+』6月18日、<https://globe.asahi.com/article/13462965>。
- 牧野久美子 (2014) 「南アフリカの現金給付政策——高齢者、障害者、子どもを対象とした社会手当制度」『アジア研ワールド・トレンド』20 (10): 17-20。
- (2019) 「2019年総選挙を控えた南アフリカの政治情勢」『アフリカレポート』57: 47-51、https://doi.org/10.24765/africareport.57.0_47。
- (2020) 「南アフリカの社会福祉——アパルトヘイト後の貧困・不平等・失業の三大課題と社会保障制度改革」、牧野久美子・岩崎えり奈編『新世界の社会福祉(11) アフリカ/中東』、旬報社、175-195ページ。
- 吉村峰子・高遠潔・木村香子・青木美由紀 (2020) 「新型コロナ——南アフリカからの報告と日本の報道の問題を考える」『アフリカNOW』No. 114 (アフリカ日本協議会)、18-19ページ。
- Boulle, Andrew, et al. (2020) “Risk Factors for COVID-19 Death in a Population Cohort Study from the Western Cape Province, South Africa,” *Clinical Infectious Diseases*, August 29, cial1198, <https://doi.org/10.1093/cid/cial1198>.
- Bridgman, Grace, et al. (2020) “Hunger in South Africa during 2020: Results from Wave 2 of NIDS-CRAM,” NIDS-CRAM, https://cramsury.org/wp-content/uploads/2020/09/3.-Bridgman-G.-Van-der-Berg-S.-_Patel-L.-2020-Hunger-in-South-Africa-during-2020-Results-from-Wave-2-of-NIDS-CRAM.pdf.
- Carlitz, Ruth D. and Moraka N. Makhura (2021) “Life under Lockdown: Illustrating Tradeoffs in South Africa’s Response to COVID-19,” *World Development*, 137: 105168, <https://doi.org/10.1016/j.worlddev.2020.105168>.

- Chipkin, Ivor, et al. (2019) *Shadow State: The Politics of State Capture*, Johannesburg: Wits University Press.
- IMF (International Monetary Fund) (2020a) “IMF Executive Board Approves US\$4.3 Billion in Emergency Support to South Africa to Address the COVID-19 Pandemic,” IMF, July 27, <https://www.imf.org/en/News/Articles/2020/07/27/pr20271-south-africa-imf-executive-board-approves-us-billion-emergency-support-covid-19-pandemic>.
- (2020b) “World Economic Outlook, October 2020: A Long and Difficult Ascent,” IMF, <https://www.imf.org/en/Publications/WEO/Issues/2020/09/30/world-economic-outlook-october-2020>.
- Jain, Ronak, et al. (2020) “The Labour Market and Poverty Impacts of COVID-19 in South Africa: An Update with NIDS-CRAM Wave 2,” NIDS-CRAM, https://cramsury.org/wp-content/uploads/2020/09/8-Jain-R.-Bassier-I.-Budlender-J.-_-Zizzamia-R.-2020-The-labour-market-and-poverty-impacts-of-COVID-19-in-South-Africa-An-update-with-NIDS-CRAM-Wave-2.pdf.
- Karim, Salim S. Abdool (2020a) “SA’s COVID-19 Epidemic: Trends and Next Steps,” <http://www.health.gov.za/index.php/component/phocadownload/category/632-sa-s-covid-19-epidemic-trends-and-next-steps-compressed>.
- (2020b) “The South African Response to the Pandemic,” *New England Journal of Medicine*, 382 (24): e95, <https://doi.org/10.1056/NEJMc2014960>.
- Patel, Leila, et al. (2020) “South Africa Must Redouble Its Policy and Relief Efforts to Stave off Hunger,” *Daily Maverick*, September 30, <https://www.dailymaverick.co.za/article/2020-09-30-south-africa-must-redouble-its-policy-and-relief-efforts-to-stave-off-hunger/>.
- Ramaphosa, Cyril (2020a) “Statement by President Cyril Ramaphosa on Escalation of Measures to Combat COVID-19 Epidemic,” March 23, <http://www.dirco.gov.za/docs/speeches/2020/cram0323.pdf>.
- (2020b) “Statement by President Cyril Ramaphosa on Further Economic and Social Measures in Response the COVID-19 Epidemic,” April 21, <http://www.dirco.gov.za/docs/speeches/2020/cram0421.pdf>.
- (2020c) “Statement by President Cyril Ramaphosa on Progress in the National Effort to Contain the COVID-19 Pandemic,” September 16, <http://www.dirco.gov.za/docs/speeches/2020/cram0916.pdf>.
- Ranchhod, Vimal, and Reza C. Daniels (2020) “Labour Market Dynamics in South Africa in the Time of COVID-19: Evidence from Waves 1 and 2 of the NIDS-CRAM Survey,” NIDS-CRAM, https://cramsury.org/wp-content/uploads/2020/09/13.-Ranchhod-V.-_-Daniels-R.-2020-Labour-market-dynamics-in-South-Africa-in-the-time-of-COVID-19-Evidence-from-Waves-1-and-2-of-the-NIDS-CRAM-survey.pdf.
- SACMC (South African COVID-19 Modelling Consortium) (2020) “Estimating Cases for COVID-19 in South Africa: Long-Term National Projections, Report Update: 6 May 2020,” https://www.nicd.ac.za/wp-content/uploads/2020/05/SACovidModellingReport_NationalLongTermProjections_Final.pdf.
- Stats SA (Statistics South Africa) (2020a) “QLFS Trends 2008-2020Q2,” Stats SA, <http://www.statssa.gov.za/publications/P0211/QLFS%20Trends%202008-2020Q2.xlsx>.
- (2020b) “29 September Quarterly Labour Force Survey (QLFS) – Q2:2020,” Stats SA, <http://www.statssa.gov.za/?p=13652>.
- WHO (World Health Organization) (2019) *Global Tuberculosis Report 2019*, WHO, <https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/329368/9789241565714-eng.pdf>.
- World Bank Group (2018) *Overcoming Poverty and Inequality in South Africa: An Assessment of Drivers, Constraints and Opportunities*, Washington, D.C.: World Bank, <http://hdl.handle.net/10986/29614>.
- * 本稿で引用したウェブサイトの最終閲覧日は、すべて2020年10月18日である。